

## 高校生の部 最優秀賞

空に手を 伸ばし掴んだ ひとひらが  
知らぬ誰かの 元へ旅立つ

宮崎第一高等学校 後藤 優希

国富町が主催する令和2年度「第33回国富町ふれあい短歌大会」の入選作品が決定し、後藤優希さん（文理科2年生）の作品が見事、最優秀賞に入選いたしました（高校生の部）。

「第33回国富町ふれあい短歌大会」は国富町法華嶽に伝わる平安時代の女流歌人・和泉式部の伝説にちなみ短歌愛好者を対象として昭和63年から開催されています（小中高生の部は平成7年度より開催）。

今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、当日の講演会等は中止となりましたが、短歌の投稿は、一般の部422名、小中高生の部2,530名の参加があり、後藤さんの短歌は見事最優秀賞に入選しました。



高校1年生の頃から、この短歌大会の時期にあわせて教科担より、プリントが配布されました。短歌や俳句に多少は興味を持っていましたので、素直に自分の気持ちを「5・7・5・7・7」にのせてみました。

（入選の知らせを聞いて）驚きすぎて硬直しました（笑）。素直にとてもうれしかったです!!

### 【委員による選評】

「ひとひら」は桜の花びらでしょう。「空に伸ばし掴んだ」の具体的な行為の表現が作者の積極的な意志を感じさせていいですね。その花びらを自分一人のものにせず、「誰かの」手元に届くようにもう一回空中に舞わせるという下の句が印象的です。「旅立つ」のは花びらだけでなく、作者自身の心でしょう。他者にむかって心の開かれた、その意味で明るい作品です。